

コートダジュール大学
BESIGN The Sustainable Design School 交換留学
月例報告書（11月分）

鈴木 梨恵琉

バスが坂を上り美しい景色が広がる。少し遠出して Nice と Monaco の真ん中に佇む小さな村 Èze へ行ってきました。Nice のバスは 1.5€ (10 回綴りは 1€/1 回) で 75 分どこまでも行けます。石造りの建物が並ぶ小道を進むと、奥に大きなサボテンやアロエなど気候の違いを感じさせられる植物園があり、海と空と共にたくさんの植物を見ることができます。コロンビア人の友人宅に着き、ディナーを取った後はラテンアメリカの音楽に合わせてダンス。いきなり男女息ぴったりで踊り始めても様になる姿に憧れます。ステップを教えられながら、気持ちの向くままに私達もダンス。実は食中毒で寝込んでいたツケもあり、翌日は筋肉痛になりましたが、次はきっとより良いラテンダンスが踊れるかもしれません…。



一番重要だと言われている授業「企業との partnership」は 11 月半ばに中間発表がありました。企業の方数人に来校してもらい現状報告をするイメージです。フォーマルな服装で来るように指示されます。デジタルのプレゼンテーションに加え、今までの作業を一目で分かるように壁にも同じ内容のものを貼り付けることになりました。Miro の画面上で作業していたものを再編集後、また壁面用にサイズ変更して印刷し、全てハサミで切って貼り付ける作業でした。あまり効率重視ではないようです。日本のようになるべく最短でゴールを目指すのではなく、右へ左へと多くの道を歩いているように感じます。このような進め方は新鮮ですが一方で慣れていないために、今何のための何をしているのかが分かりにくいと感じることもあります。ただ、それに対して明確な答えを誰かが持っているわけでもないように思います。

Partnership でリーダーを担う立場である M1 の授業は、普段から Partnership と関係している授業が多く、学んだことをしっかりと取り入れながらプロジェクトを進めている印象を受けました。Miro の作業中での小さな発見は、海外でも絵文字を emoji と

ということです。絵文字には日本のモノが沢山あるよね！と言われました。確かに！

ある日の休憩中、トルコ人の友人が日本のデザインについて論文を書いたことがあり「日本は昔や古いものを振り返り、学び、それをデザインにも取り入れている。どの国もそれを大切だと分かっているけど、実際に出来ているのは日本くらいだと思う。」といった意見を述べてくれました。日本に対してそのような見方を持ってくれていることを嬉しく思いました。それについて何故なのか、私なりに思ったことを伝えました。温故知新の考え方は、確かに日本人に根付いているように感じます。こうして、日本の良き一面に気付くことも多い毎日です。



秋の味覚、栗。家の近くで栗の祭りが開催されていました。ホットサングリアと栗が無料で頂きました。フランスでは路上飲酒が禁止ですが、このような日は大丈夫なようです。想像以上に大規模なイベントで、マルシェに加えて移動式動物園・遊園地、そしてハウルの動く城のソフィの

ようなマダム達が1990年代のアンティークモノの展示をする通りまでありました！木組みのメリーゴーランドや1990年代の美容室・衣服・本・アイロン…またアイアン（鍛造）やガラスの職人の路上実演も見ることができました。非常に有意義で、素敵な祭りの在り方だと感じました。

月末は友人とParisへ。初めての海外観光旅行。ホテルのネット予約では、日本のクレジットカードがどれも拒まれ困惑しましたがフランスのカードで支払えました。交通手段は約15時間の夜行バスを選び、初めての2段バスは通常より乗り物酔いが酷く、体も痛くて眠れない…。次回からはお財布と要相談です。滞在は2日間だったので美術館の中などは次の機会に残し、あらゆる場所を散策しました。建築の講義で何度も見たポンピドーセンターにも行きました。まさか実際に見ることになるとは…。数年前を思い出し、懐かしい気持ちになりました。Parisの街並みは、色味が少なくクラシックな雰囲気を持つところが好きです。クリスマスマーケットや三大蚤の市の1つクリニャンクールにも訪れました。本当に規模は大きいのですが、通りによってガラリと雰囲気が変わるので改めて下調べは大切だと感じました。

